

# 2019年度 卒業時アンケート集計結果

## 家政学部(通学課程)

「卒業時アンケート」実施に際し、各学科のご協力をたまり、誠にありがとうございました。集計結果をご報告いたします。

このアンケートでは、卒業予定者を対象に、大学、学部、学科、それぞれの学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)について、「身についたと思いますか」という意識調査をしております。同時に、「日本女子大学で学んで良かったと思いますか?」、「学生生活に関する大学の支援体制は、あなたにとって適切だったと思いますか?」という質問をいたしました。

なお、大学、学部、学科のディプロマ・ポリシーにつきましては、その回答の平均値を経年比較しております。文言の変更がある項目については、内容の似ているものはそのまま比較を行っておりますが、新規のDPIについては、比較から外している項目もあります。また、内容に変更・結合・分離等がある項目のうち、比較が可能と判断した項目については、注釈を付して集計いたしました。自由記述箇所につきましては、学生の記載原文を記載しております。(注:2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」を選択肢としていました。)

本件につきまして、ご意見、ご質問がございましたら、大学改革推進室IR推進室までお願いいたします。

### ※集計結果の公表について

・集計結果は、以下の大学改革推進室HPにて閲覧いただけます(ただし、専任教職員のみ学内で閲覧可)。

### ※学生へのフィードバックについて

・対象学生が結果を閲覧できるのは、JASMINE-Navilにアクセス可能な「3月20日」までとなります。

・対象学生は、自身の所属学部の集計結果(PDF)を閲覧することができます。

### 目次

1. 家政学部 (全体)	2
2. 家政学部 児童学科	4
3. 家政学部 食物学科 食物学専攻	6
4. 家政学部 食物学科 管理栄養士専攻	8
5. 家政学部 住居学科 居住環境デザイン専攻	10
6. 家政学部 住居学科 建築デザイン専攻	12
7. 家政学部 被服学科	14
8. 家政学部 家政経済学科	16

### <2019年度回答率>

学部	学科	専攻	2019年5月1日 4年次在籍者数	回答数	回答率
家政	児童		101	93	92.1%
	食物	食物学	33	32	97.0%
		管理栄養士	48	47	97.9%
	住居	居住環境デザイン	61	52	85.2%
		建築デザイン	41	32	78.0%
	被服		102	85	83.3%
	家政経済		91	83	91.2%
計		477	424	88.9%	
文	日本文		133	114	85.7%
	英文		192	155	80.7%
	史		100	73	73.0%
	計		425	342	80.5%
人間社会	現代社会		96	90	93.8%
	社会福祉		109	70	64.2%
	教育		100	90	90.0%
	心理		87	77	88.5%
	文化		141	87	61.7%
	計		533	414	77.7%
理	数物科		87	69	79.3%
	物質生物科		100	89	89.0%
	計		187	158	84.5%
学部合計 (通学課程全体)			1,622	1,338	82.5%

# 1. 家政学部 (全体)

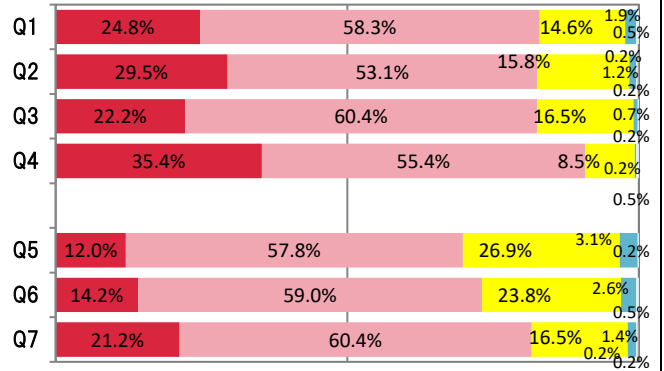
(回収率:88.9%)

＜身についたと思いますか＞

◆ 日本女子大学の学位授与方針(DP)	
Q1	建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。
Q2	強い信念を持ち自らの人生を切り拓いていくことができる。
Q3	自ら新たな課題を発見し、専門的知識と教養教育により培われた知性と感性によって課題の解決に努めることができる。
Q4	他者に対する共感の気持ちを持ち、まわりの人々と円滑なコミュニケーションをはかって、共同でよりよい社会を築くことができる。
◆ 家政学部の学位授与方針(DP)	
Q5	人間と社会、及び両者の関わりについて様々な視点から考察することができる。
Q6	人々と実践的に関わり合いながら、専門的知識を踏まえてものごとを見ることができる。
Q7	地域社会の問題から世界の問題まで、広い視野に立って考察し、具体的な解決を引きだすことができる。

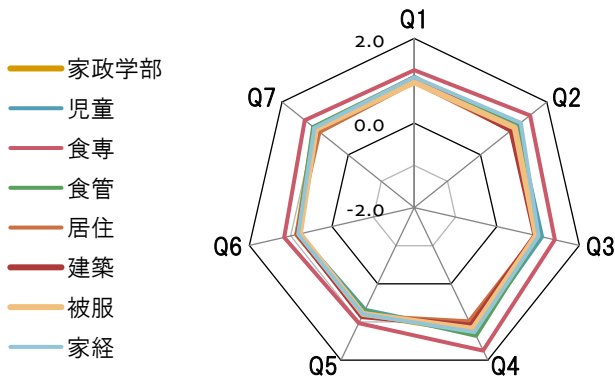
2019年度	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7
強く思う	105	125	94	150	51	60	90
思う	247	225	256	235	245	250	256
どちらともいえない	62	67	70	36	114	101	70
思わない	8	5	3	1	13	11	6
全く思わない	2	1	1	2	1	2	1
無回答	0	1	0	0	0	0	1

■ 強く思う
 ■ 思う
 ■ どちらともいえない
 ■ 思わない
 ■ 全く思わない
 ■ 無回答



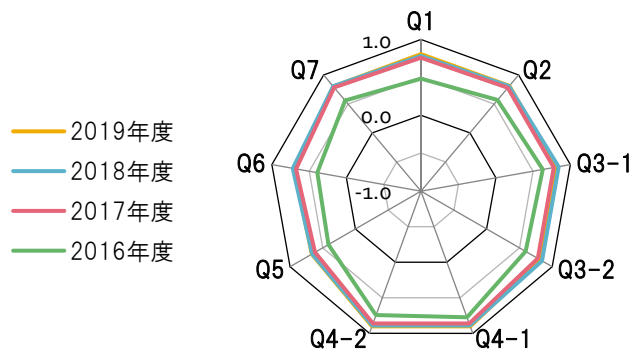
2019年度家政学部平均

※「強く思う」を2点、「思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「思わない」を-1点、「全く思わない」を-2点とした平均値（「無回答」は集計から除外）



2016～2019年度家政学部平均

※「強く思う」「思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「思わない」「全く思わない」を-1点とした平均値（「無回答」は集計から除外）  
 ※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢

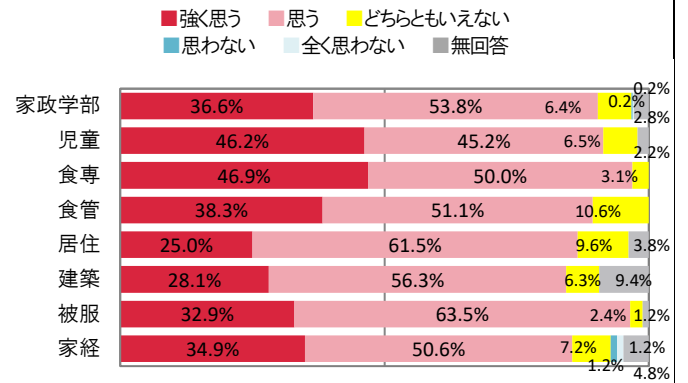


グラフ	2016年度まで	Q	2017年度
Q1	建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。	Q1	建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。
Q2	強い信念を持ち自らの人生を切り拓いていくことができる。	Q2	強い信念を持ち自らの人生を切り拓いていくことができる。
Q3-1	専門的知識と教養教育をバランスよく学び、豊かな知性と感性を身につける。	Q3	自ら新たな課題を発見し、専門的知識と教養教育により培われた知性と感性によって課題の解決に努めることができる。
Q3-2	自ら新たな課題を発見し、専門的知識と教養教育により培われた知性と感性によって課題の解決に努めることができる。		
Q4-1	他者に対する共感の気持ちをもつことができる。	Q4	他者に対する共感の気持ちを持ち、まわりの人々と円滑なコミュニケーションをはかって、共同でよりよい社会を築くことができる。
Q4-2	まわりの人びとと円滑なコミュニケーションをはかって、共同でよりよい社会を築くことができる。		
Q5	人間生活を科学的かつ実践的に考察することができる。	Q5	人間生活を科学的かつ実践的に考察することができる。
Q6	生活そのものが持つ総合性を理解し、専門的知識をもって社会に貢献することができる。	Q6	生活そのものが持つ総合性を理解し、専門的知識を持って社会に貢献することができる。
Q7	現実の生活を客観的に把握し、自ら問題を発見し、解決していくことができる。	Q7	現実の生活を客観的に把握し、自ら問題を発見し、様々な人と協働して解決していくことができる。

◇日本女子大学で学んで良かったと思えますか？（2013年度から調査している項目）

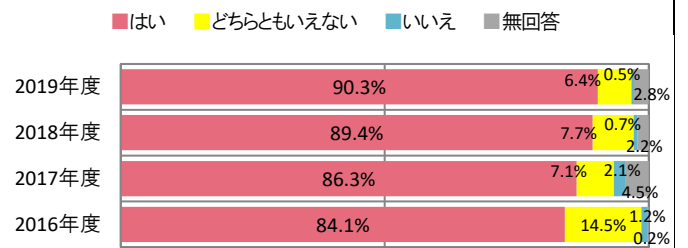
2019年度	家政学部	児童	食専	食管	居住	建築	被服	家経
強く思う	155	43	15	18	13	9	28	29
思う	228	42	16	24	32	18	54	42
どちらともいえない	27	6	1	5	5	2	2	6
思わない	1	0	0	0	0	0	0	1
全く思わない	1	0	0	0	0	0	0	1
無回答	12	2	0	0	2	3	1	4

(人)



家政学部	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	
はい	強く思う	155	126	116	364
	思う	228	245	250	
どちらともいえない	どちらともいえない	27	32	30	63
	思わない	1	2	9	5
いいえ	全く思わない	1	1	0	1
	無回答	12	9	19	1

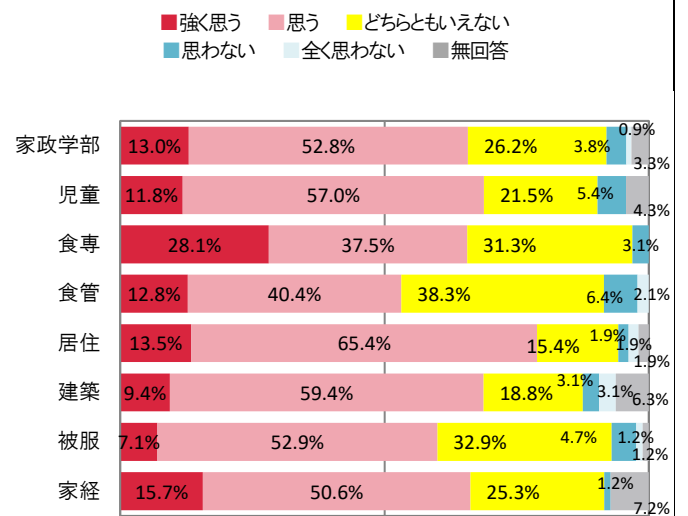
※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢



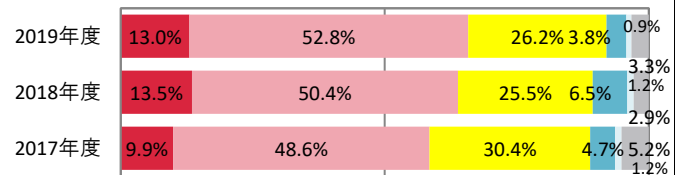
◇学生生活に関する大学の支援体制は、あなたにとって適切だったと思えますか？（2017年度からの調査項目）

2019年度	家政学部	児童	食専	食管	居住	建築	被服	家経
強く思う	55	11	9	6	7	3	6	13
思う	224	53	12	19	34	19	45	42
どちらともいえない	111	20	10	18	8	6	28	21
思わない	16	5	1	3	1	1	4	1
全く思わない	4	0	0	1	1	1	1	0
無回答	14	4	0	0	1	2	1	6

(人)



家政学部	2019	2018	2017
強く思う	55	56	42
思う	224	209	206
どちらともいえない	111	106	129
思わない	16	27	20
全く思わない	4	5	5
無回答	14	12	22



## 2. 家政学部 児童学科

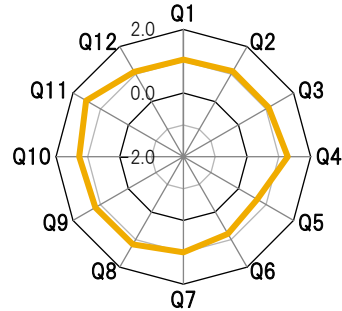
(回収率: 92.1%)

### ＜身についたと思いますか＞

◆ 日本女子大学の学位授与方針(DP)	
Q1	建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。
Q2	強い信念を持ち自らの人生を切り拓いていくことができる。
Q3	自ら新たな課題を発見し、専門的知識と教養教育により培われた知性と感性によって課題の解決に努めることができる。
Q4	他者に対する共感の気持ちを持ち、まわりの人々と円滑なコミュニケーションをはかって、共同でよりよい社会を築くことができる。
◆ 家政学部の学位授与方針(DP)	
Q5	人間生活を科学的かつ実践的に考察することができる。
Q6	生活そのものが持つ総合性を理解し、専門的知識を持って社会に貢献することができる。
Q7	現実の生活を客観的に把握し、自ら問題を発見し、様々な人と協働して解決していくことができる。
◆ 児童学科の学位授与方針(DP)	
Q8	心理・教育・健康・文化・社会の5領域からなる児童学の幅広い知識を持ち、子どもを理解することができる。
Q9	子どもに関わる諸問題に対し、専門的知識を持って課題解決に取り組むことができる。
Q10	多角的な視野から子どもに関する知識を持ち、的確な子ども観を形成できる。
Q11	実際に子どもを観察し、子どもから学ぶ姿勢を持つことができる。
Q12	少人数のゼミにおいて、実際の子どもの知識を用い、自らの見解をわかりやすく伝えることができる。

### 2019年度児童学科平均

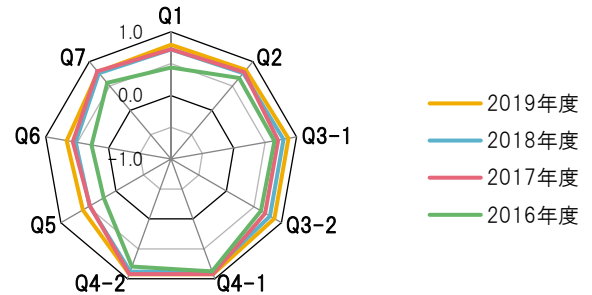
※「強く思う」を2点、「思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「思わない」を-1点、「全く思わない」を-2点とした平均値（「無回答」は集計から除外）



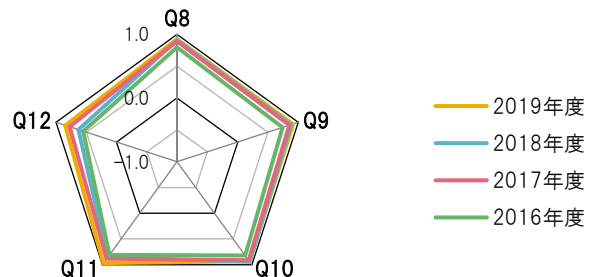
※「強く思う」「思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「思わない」「全く思わない」を-1点とした平均値（「無回答」は集計から除外）

※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢

### 日本女子大学DP(1~4)・家政学部DP(5~7)



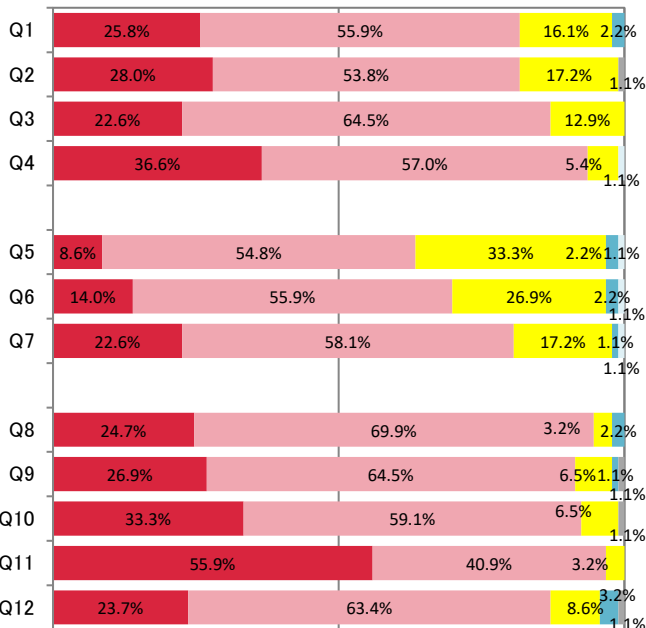
### 児童学科DP(8~12)



(人)

2019年度	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12
強く思う	24	26	21	34	8	13	21	23	25	31	52	22
思う	52	50	60	53	51	52	54	65	60	55	38	59
どちらともいえない	15	16	12	5	31	25	16	3	6	6	3	8
思わない	2	0	0	0	2	2	1	2	1	0	0	3
全く思わない	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0
無回答	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1

■ 強く思う
 ■ 思う
 ■ どちらともいえない  
■ 思わない
 ■ 全く思わない
 ■ 無回答

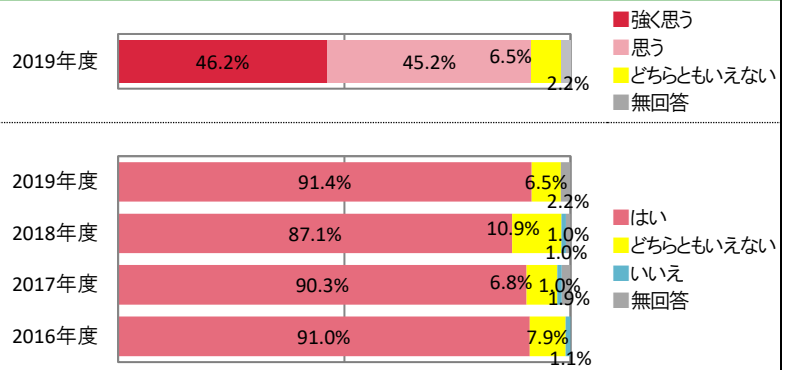


グラフ	2016年度まで	Q	2017年度より
Q8	心理・教育・健康・文化・社会の5領域からなる児童学の幅広い知識を持ち、子どもを理解することができる。	Q8	心理・教育・健康・文化・社会の5領域からなる児童学の幅広い知識を持ち、子どもを理解することができる。
Q9	子どもに関わる諸問題に対し、専門的知識を持って課題解決に取り組むことができる。	Q9	子どもに関わる諸問題に対し、専門的知識を持って課題解決に取り組むことができる。
Q10	多角的な視野から子どもに関する知識を持ち、的確な子ども観を形成できる。	Q10	多角的な視野から子どもに関する知識を持ち、的確な子ども観を形成できる。
Q11	実際に子どもを観察し、子どもから学ぶ姿勢を持つことができる。	Q11	実際に子どもを観察し、子どもから学ぶ姿勢を持つことができる。
Q12	少人数のゼミにおいて、実際の子どもの知識を用い、自らの見解をわかりやすく伝えることができる。	Q12	少人数のゼミにおいて、実際の子どもの知識を用い、自らの見解をわかりやすく伝えることができる。

◇ 日本女子大学で学んで良かったと思いますか？

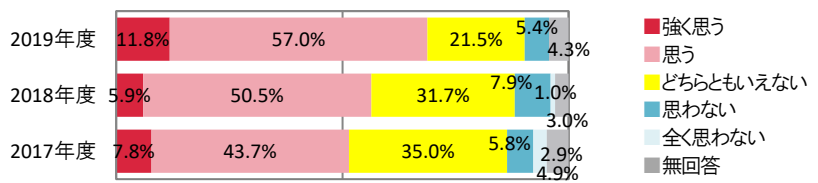
児童	年度	2019	2018	2017	2016
はい	強く思う	43	25	32	81
	思う	42	63	61	
どちらともいえない	どちらともいえない	6	11	7	7
いいえ	思わない	0	1	1	1
	全く思わない	0	0	0	
無回答	無回答	2	1	2	0

※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢



◇ 学生生活に関する大学の支援体制は、あなたにとって適切だったと思いますか？

児童	2019年度	2018	2017
強く思う	11	6	8
思う	53	51	45
どちらともいえない	20	32	36
思わない	5	8	6
全く思わない	0	1	3
無回答	4	3	5



### 3. 家政学部 食物学科 食物学専攻

(回収率:97.0%)

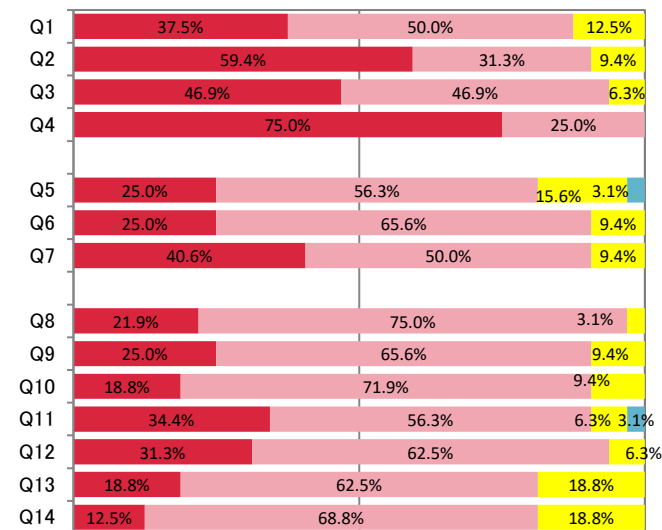
<身についたと思いますか>

<b>◆ 日本女子大学の学位授与方針(DP)</b>	
Q1	建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。
Q2	強い信念を持ち自らの人生を切り拓いていくことができる。
Q3	自ら新たな課題を発見し、専門的知識と教養教育により培われた知性と感性によって課題の解決に努めることができる。
Q4	他者に対する共感の気持ちを持ち、まわりの人々と円滑なコミュニケーションをはかって、共同でよりよい社会を築くことができる。
<b>◆ 家政学部の学位授与方針(DP)</b>	
Q5	人間生活を科学的かつ実践的に考察することができる。
Q6	生活そのものが持つ総合性を理解し、専門的知識を持って社会に貢献することができる。
Q7	現実の生活を客観的に把握し、自ら問題を発見し、様々な人と協働して解決していくことができる。
<b>◆ 食物学科食物学専攻の学位授与方針(DP)</b>	
Q8	食品、栄養、調理を中心とした食と生活に関わる諸科学を広く学び、食についての正しい科学的知識を修得し、それらを問題解決に応用することができる。
Q9	多面的な視点から食物を総合的に理解するスペシャリストとして必要な知識・能力を有する。
Q10	生活や社会といった観点から、食に関する様々な問題を捉え、正しい科学的知識に基づき、論理的に洞察することができる。
Q11	専門分野の知識を生活及び社会において人々の健全な食生活の推進と健康の維持増進のために生かして社会に貢献したいという意欲を有する。
Q12	食物の生活や社会に及ぼす影響や効果を説明でき、食に関する様々な問題の解決に積極的な姿勢を有する。
Q13	食品、調理、栄養、医学に関する諸科学、技術及び情報を利用して、社会の要求を解決するために創造し、表現することができる。
Q14	論理的に記述し、的確に表現することができる。

(人)

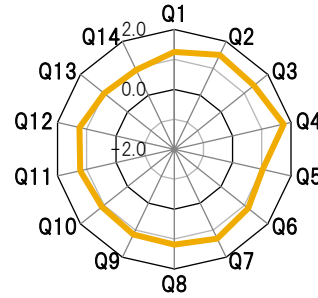
	2019年度	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14
強く思う	12	19	15	24	8	8	13	7	8	6	11	10	6	4	
思う	16	10	15	8	18	21	16	24	21	23	18	20	20	22	
どちらともいえない	4	3	2	0	5	3	3	1	3	3	2	2	6	6	
思わない	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
全く思わない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

■ 強く思う ■ 思う ■ どちらともいえない ■ 思わない ■ 全く思わない ■ 無回答



#### 2019年度食物学科食物学専攻平均

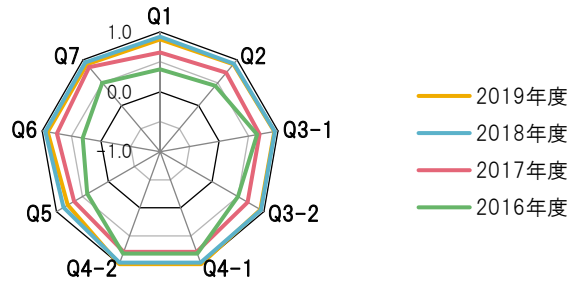
※「強く思う」を2点、「思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「思わない」を-1点、「全く思わない」を-2点とした平均値（「無回答」は集計から除外）



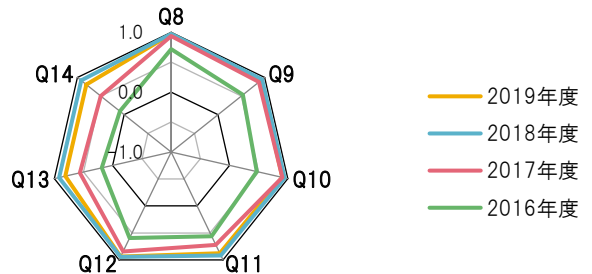
※「強く思う」「思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「思わない」「全く思わない」を-1点とした平均値（「無回答」は集計から除外）

※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢

#### 日本女子大学DP(1~4)・家政学部DP(5~7)



#### 食物学科食物学専攻DP(8~14)

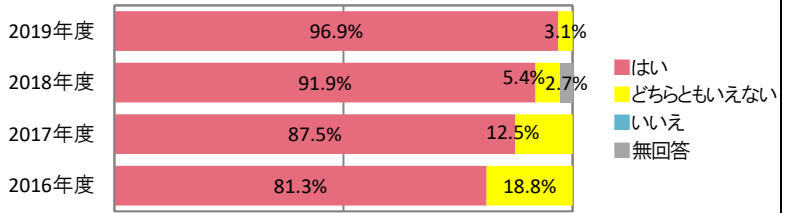
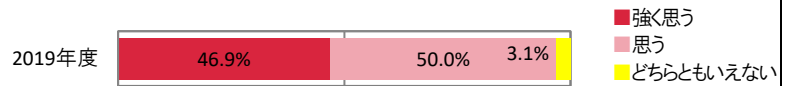


グラフ	2016年度まで	Q	2017年度より
Q8	食品、栄養、調理を中心とした食と生活にかかわる諸科学を広く学び、食についての正しい科学的知識を修得し、それらを問題解決に応用することができる。	Q8	食品、栄養、調理を中心とした食と生活に関わる諸科学を広く学び、食についての正しい科学的知識を修得し、それらを問題解決に応用することができる。
Q9	多面的な視点から食物を総合的に理解するスペシャリストとして必要な知識・能力を有する。	Q9	多面的な視点から食物を総合的に理解するスペシャリストとして必要な知識・能力を有する。
Q10	生活や社会といった観点から、食に関する様々な問題を捉え、正しい科学的知識に基づき、論理的に洞察することができる。	Q10	生活や社会といった観点から、食に関する様々な問題を捉え、正しい科学的知識に基づき、論理的に洞察することができる。
Q11	専門分野の知識を生活および社会において人々の健全な食生活の推進と健康の維持増進のために生かして社会に貢献したいという意欲を有する。	Q11	専門分野の知識を生活及び社会において人々の健全な食生活の推進と健康の維持増進のために生かして社会に貢献したいという意欲を有する。
Q12	食物の生活や社会に及ぼす影響や効果を説明でき、食に関する様々な問題の解決に積極的な姿勢を有する。	Q12	食物の生活や社会に及ぼす影響や効果を説明でき、食に関する様々な問題の解決に積極的な姿勢を有する。
Q13	食品、調理、栄養、医学に関する諸科学、技術及び情報を利用して、社会の要求を解決するために創造し、表現することができる。	Q13	食品、調理、栄養、医学に関する諸科学、技術及び情報を利用して、社会の要求を解決するために創造し、表現することができる。
Q14	論理的に記述し、的確に表現することができる。	Q14	論理的に記述し、的確に表現することができる。

◇ 日本女子大学で学んで良かったと思いますか？

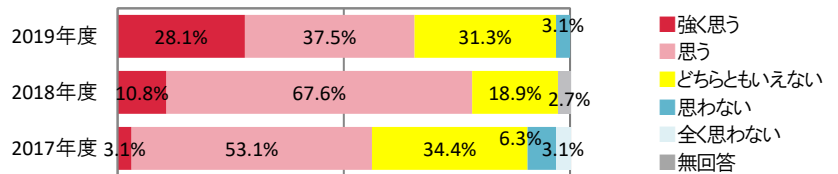
食専	年度	2019	2018	2017	2016
はい	強く思う	15	11	8	26
	思う	16	23	20	
どちらともいえない	どちらともいえない	1	2	4	6
	いいえ	0	0	0	
いいえ	全く思わない	0	0	0	0
	無回答	0	1	0	

※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢



◇ 学生生活に関する大学の支援体制は、あなたにとって適切だったと思いますか？

食専	2019年度	2018	2017
強く思う	9	4	1
思う	12	25	17
どちらともいえない	10	7	11
思わない	1	0	2
全く思わない	0	0	1
無回答	0	1	0



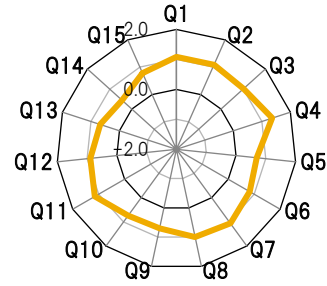
### 4. 家政学部 食物学科 管理栄養士専攻

(回収率:97.9%)

＜身についたと思いますか＞	
◆ 日本女子大学の学位授与方針(DP)	
Q1	建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。
Q2	強い信念を持ち自らの人生を切り拓いていくことができる。
Q3	自ら新たな課題を発見し、専門的知識と教養教育により培われた知性と感性によって課題の解決に努めることができる。
Q4	他者に対する共感の気持ちを持ち、まわりの人々と円滑なコミュニケーションをはかって、共同でよりよい社会を築くことができる。
◆ 家政学部の学位授与方針(DP)	
Q5	人間生活を科学的かつ実践的に考察することができる。
Q6	生活そのものが持つ総合性を理解し、専門的知識を持って社会に貢献することができる。
Q7	現実の生活を客観的に把握し、自ら問題を発見し、様々な人と協働して解決していくことができる。
◆ 食物学科管理栄養士専攻の学位授与方針(DP)	
Q8	食品、栄養、調理を中心とした食と生活に関する諸科学を広く学び、食についての正しい科学的知識を修得し、それらを問題解決に応用することができる。
Q9	管理栄養士資格を取得するのに必要十分な知識と応用力を有する。
Q10	生活や社会といった観点から、食に関する様々な問題を捉え、正しい科学的知識に基づき、論理的に洞察することができる。
Q11	専門分野の知識を生活及び社会において人々の健全な食生活の推進と健康の維持増進のために活かして社会に貢献したいという意欲を有する。
Q12	健康の保持増進、疾病治療における医療職としての責務を果たす者としての自覚を持ち、積極的に社会参画する意欲と生涯学習を継続しようとする態度を有する。
Q13	食品、調理、栄養、医学に関する諸科学、技術及び情報を利用して、社会の要求を解決するため創造し、表現することができる。
Q14	論理的に記述し、的確に表現することができる。
Q15	管理栄養士専門科目である臨床栄養学、公衆栄養学、栄養教育論、給食経営管理論に関する技能を有し、対象と目的に応じた展開ができる。

#### 2019年度食物学科管理栄養士専攻平均

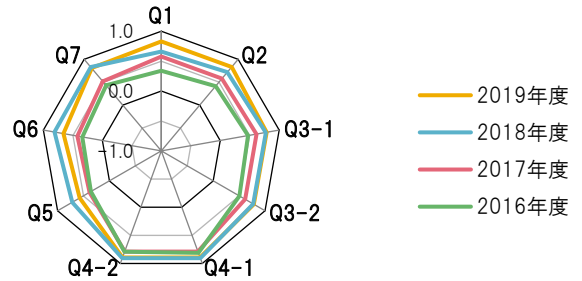
※「強く思う」を2点、「思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「思わない」を-1点、「全く思わない」を-2点とした平均値（「無回答」は集計から除外）



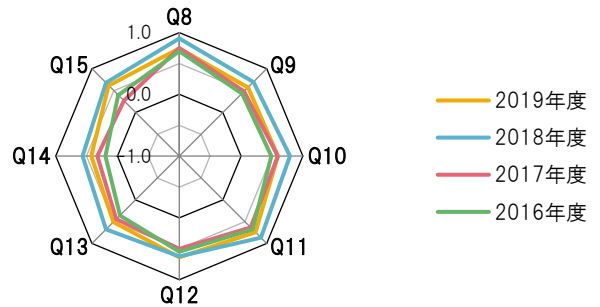
※「強く思う」「思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「思わない」「全く思わない」を-1点とした平均値（「無回答」は集計から除外）

※2016年度までは、「よい」「いい」「どちらでもない」の3選択肢

日本女子大学DP(1~4)・家政学部DP(5~7)

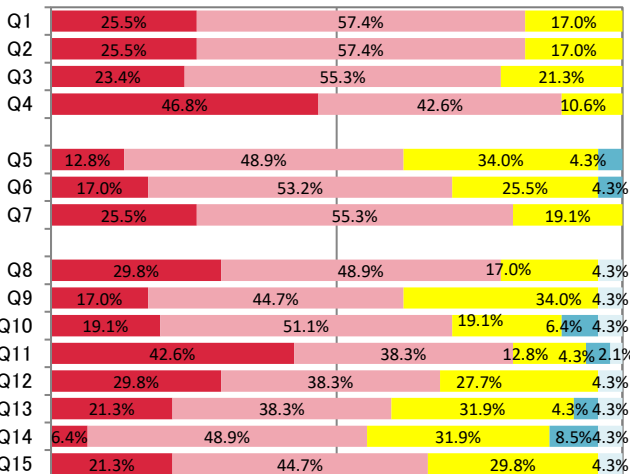


#### 食物学科管理栄養士専攻DP(8~15)



2019年度	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14	Q15
強く思う	12	12	11	22	6	8	12	14	8	9	20	14	10	3	10
思う	27	27	26	20	23	25	26	23	21	24	18	18	18	23	21
どちらともいえない	8	8	10	5	16	12	9	8	16	9	6	13	15	15	14
思わない	0	0	0	0	2	2	0	0	0	3	2	0	2	4	0
全く思わない	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	1	2	2	2	2
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

■ 強く思う ■ 思う ■ どちらともいえない ■ 思わない ■ 全く思わない ■ 無回答



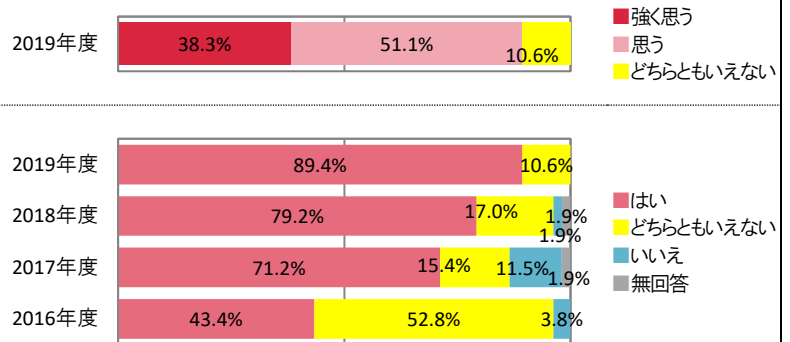
グラフ	2016年度まで	Q	2017年度より
Q8	食品、栄養、調理を中心とした食と生活にかかわる諸科学を広く学び、食についての正しい科学的知識を修得し、それらを問題解決に応用することができる。	Q8	食品、栄養、調理を中心とした食と生活に関する諸科学を広く学び、食についての正しい科学的知識を修得し、それらを問題解決に応用することができる。
Q9	管理栄養士資格を取得するのに必要十分な知識と応用力を有する。	Q9	管理栄養士資格を取得するのに必要十分な知識と応用力を有する。
Q10	生活や社会といった観点から、食に関する様々な問題を捉え、正しい科学的知識に基づき、論理的に洞察することができる。	Q10	生活や社会といった観点から、食に関する様々な問題を捉え、正しい科学的知識に基づき、論理的に洞察することができる。
Q11	専門分野の知識を生活および社会において人々の健全な食生活の推進と健康の維持増進のために活かして社会に貢献したいという意欲を有する。	Q11	専門分野の知識を生活及び社会において人々の健全な食生活の推進と健康の維持増進のために活かして社会に貢献したいという意欲を有する。
Q12	健康の保持増進、疾病治療における医療職としての責務を果たす者としての自覚を持ち、積極的に社会参画する意欲と生涯学習を継続しようとする態度を有する。	Q12	健康の保持増進、疾病治療における医療職としての責務を果たす者としての自覚を持ち、積極的に社会参画する意欲と生涯学習を継続しようとする態度を有する。
Q13	食品、調理、栄養、医学に関する諸科学、技術及び情報を利用して、社会の要求を解決するために創造し、表現することができる。	Q13	食品、調理、栄養、医学に関する諸科学、技術及び情報を利用して、社会の要求を解決するために創造し、表現することができる。
Q14	論理的に記述し、的確に表現することができる。	Q14	論理的に記述し、的確に表現することができる。
Q15	管理栄養士専門科目である臨床栄養学、公衆栄養学、栄養教育論、給食経営管理論に関する技能を有し、対象と目的に応じた展開ができる。	Q15	管理栄養士専門科目である臨床栄養学、公衆栄養学、栄養教育論、給食経営管理論に関する技能を有し、対象と目的に応じた展開ができる。



◇ 日本女子大学で学んで良かったと思いますか？

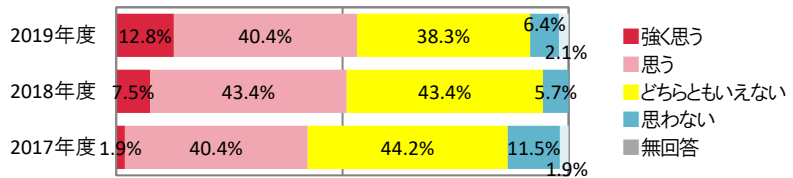
食管	年度	2019	2018	2017	2016
はい	強く思う	18	8	7	23
	思う	24	34	30	
どちらともいえない	どちらともいえない	5	9	8	28
いいえ	思わない	0	1	6	2
	全く思わない	0	0	0	
無回答	無回答	0	1	1	0

※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢



◇ 学生生活に関する大学の支援体制は、あなたにとって適切だったと思いますか？

食管	2019年度	2018	2017
強く思う	6	4	1
思う	19	23	21
どちらともいえない	18	23	23
思わない	3	3	6
全く思わない	1	0	1
無回答	0	0	0



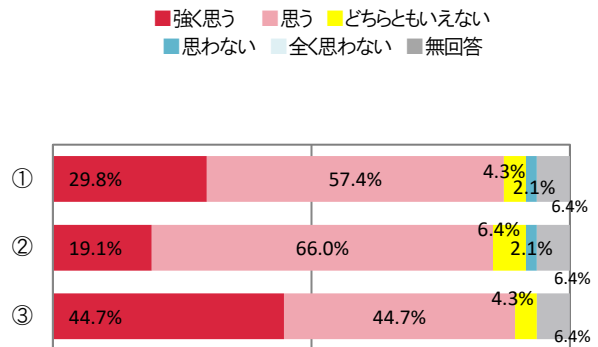
<食物学科 管理栄養士専攻のみ>

◆食物学科管理栄養士専攻の学生として以下のことが身についたと思いますか？

- ① 人の発育・発達、健康の維持・増進、疾病予防に関わる基礎および専門的な知識を有する。
- ② 傷病者に対する栄養指導、栄養管理と特別の配慮を必要とする給食管理等について理解している。
- ③ 生命の尊厳を理解し、QOL(生活の質・人生の質)に関心を持っている。

(人)

2019年度	①	②	③
強く思う	14	9	21
思う	27	31	21
どちらともいえない	2	3	2
思わない	1	1	0
全く思わない	0	0	0
無回答	3	3	3



5. 家政学部 住居学科 居住環境デザイン専攻

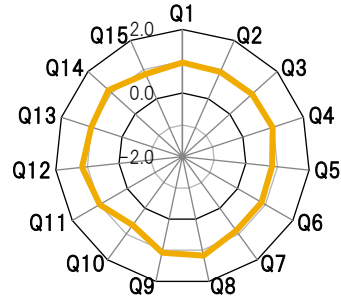
(回収率:85.2%)

<身についたと思いますか>

◆ 日本女子大学の学位授与方針(DP)
Q1 建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。
Q2 強い信念を持ち自らの人生を切り拓いていくことができる。
Q3 自ら新たな課題を発見し、専門的知識と教養教育により培われた知性と感性によって課題の解決に努めることができる。
Q4 他者に対する共感の気持ちを持ち、まわりの人々と円滑なコミュニケーションをはかって、共同でよりよい社会を築くことができる。
◆ 家政学部の学位授与方針(DP)
Q5 人間生活を科学的かつ実践的に考察することができる。
Q6 生活そのものが持つ総合性を理解し、専門的知識を持って社会に貢献することができる。
Q7 現実の生活を客観的に把握し、自ら問題を発見し、様々な人と協働して解決していくことができる。
◆ 住居学科居住環境デザイン専攻の学位授与方針(DP)
Q8 広い視野から住居や地域を理解できる。
Q9 住生活の歩みと現状を理解できる。
Q10 自然科学、情報処理技術等の知識を用い、生活環境に関わる問題を論理的に分析できる。
Q11 住生活の向上を促す様々な技術を踏まえ、生活環境の住みよさを考えることができる。
Q12 住宅の内・外空間について、家族、ライフスタイル、歴史文化、安全性、快適性等多角的に考えることができる。
Q13 近隣や地域を含めた住環境において、様々な住民が住みよいとされるような環境改善を提案できる。
Q14 住宅・建築を居住者や利用者の立場から考え、デザインすることができる。
Q15 プレゼンテーション及びコミュニケーション能力を高め、専門の立場から発言ができる。

2019年度住居学科居住環境デザイン専攻平均

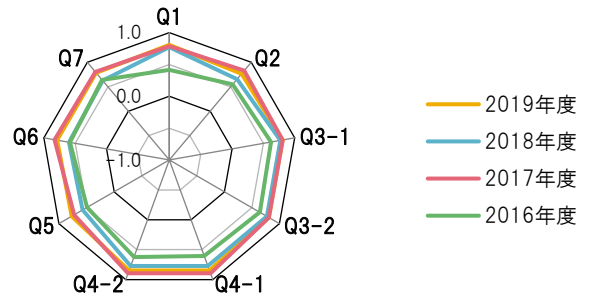
※「強く思う」を2点、「思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「思わない」を-1点、「全く思わない」を-2点とした平均値（「無回答」は集計から除外）



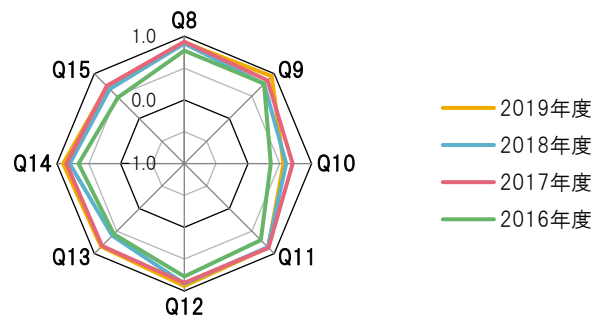
※「強く思う」「思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「思わない」「全く思わない」を-1点とした平均値（「無回答」は集計から除外）

※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢

日本女子大学DP(1~4)・家政学部DP(5~7)



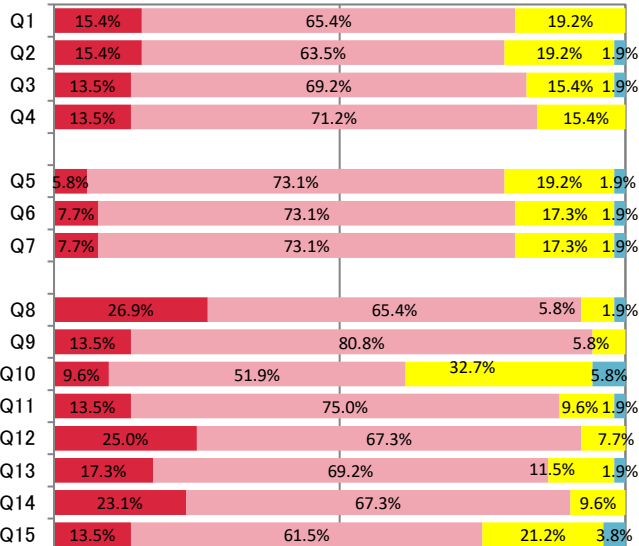
住居学科居住環境デザイン専攻DP(8~15)



(人)

2019年度	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14	Q15
強く思う	8	8	7	7	3	4	4	14	7	5	7	13	9	12	7
思う	34	33	36	37	38	38	38	34	42	27	39	35	36	35	32
どちらともいえない	10	10	8	8	10	9	9	3	3	17	5	4	6	5	11
思わない	0	1	1	0	1	1	1	1	0	3	1	0	1	0	2
全く思わない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

■ 強く思う ■ 思う ■ どちらともいえない  
■ 思わない ■ 全く思わない ■ 無回答

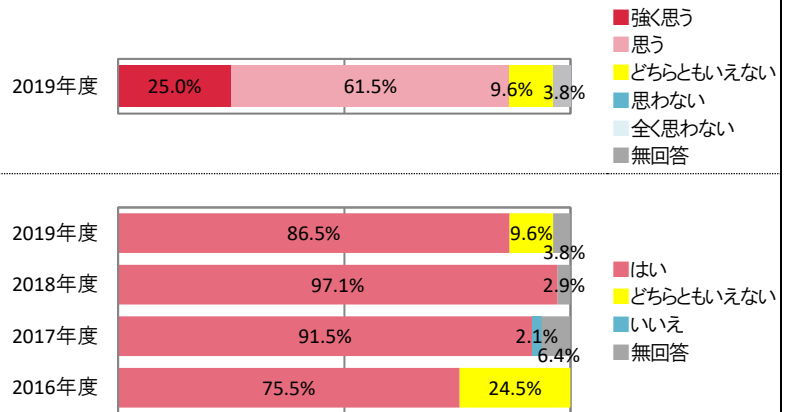


グラフ	2016年度まで	Q	2017年度より
Q8	広い視野から住居や地域を理解できる。	Q8	広い視野から住居や地域を理解できる。
Q9	住生活の歩みと現状を理解できる。	Q9	住生活の歩みと現状を理解できる。
Q10	自然科学、情報処理技術などの知識を用い、生活環境に関わる問題を論理的に分析できる。	Q10	自然科学、情報処理技術等の知識を用い、生活環境に関わる問題を論理的に分析できる。
Q11	住生活の向上を促す様々な技術を踏まえ、生活環境の住みよさを考えることができる。	Q11	住生活の向上を促す様々な技術を踏まえ、生活環境の住みよさを考えることができる。
Q12	住宅の内・外空間について、家族、ライフスタイル、歴史文化、安全性、快適性等多角的に考えることができる。	Q12	住宅の内・外空間について、家族、ライフスタイル、歴史文化、安全性、快適性等多角的に考えることができる。
Q13	近隣や地域を含めた住環境において、様々な住民が住みよいとされるような環境改善を指導できる。	Q13	近隣や地域を含めた住環境において、様々な住民が住みよいとされるような環境改善を提案できる。
Q14	住宅・建築を居住者や利用者の立場から考え、デザインすることができる。	Q14	住宅・建築を居住者や利用者の立場から考え、デザインすることができる。
Q15	プレゼンテーションおよびコミュニケーション能力を高め、専門の立場から社会的発言ができる。	Q15	プレゼンテーションおよびコミュニケーション能力を高め、専門の立場から社会的発言ができる。

◇ 日本女子大学で学んで良かったと思いますか？

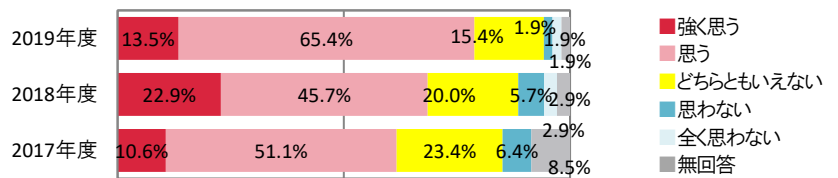
居住	年度	2019	2018	2017	2016
はい	強く思う	13	16	11	40
	思う	32	18	32	
どちらともいえない	どちらともいえない	5	0	0	13
	思わない	0	0	1	
いいえ	全く思わない	0	0	0	0
	無回答	2	1	3	

※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢



◇ 学生生活に関する大学の支援体制は、あなたにとって適切だったと思いますか？

居住	2019年度	2018	2017
強く思う	7	8	5
思う	34	16	24
どちらともいえない	8	7	11
思わない	1	2	3
全く思わない	1	1	0
無回答	1	1	4



## 6. 家政学部 住居学科 建築デザイン専攻

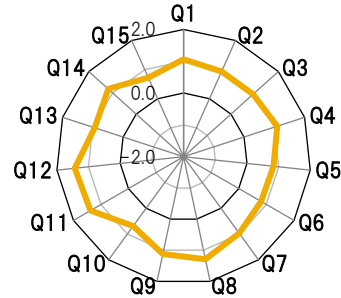
(回収率: 78.0%)

＜身についたと思いますか＞

◆ 日本女子大学の学位授与方針(DP)	
Q1	建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。
Q2	強い信念を持ち自らの人生を切り拓いていくことができる。
Q3	自ら新たな課題を発見し、専門的知識と教養教育により培われた知性と感性によって課題の解決に努めることができる。
Q4	他者に対する共感の気持ちを持ち、まわりの人々と円滑なコミュニケーションをはかって、共同でよりよい社会を築くことができる。
◆ 家政学部の学位授与方針(DP)	
Q5	人間生活を科学的かつ実践的に考察することができる。
Q6	生活そのものが持つ総合性を理解し、専門的知識を持って社会に貢献することができる。
Q7	現実の生活を客観的に把握し、自ら問題を発見し、様々な人と協働して解決していくことができる。
◆ 住居学科建築デザイン専攻の学位授与方針(DP)	
Q8	広い視野から住居や地域を理解できる。
Q9	建築設計に必要なことの基本を理解できる。
Q10	自然科学、情報処理技術等の知識を用い、生活環境に関わる問題を論理的に分析できる。
Q11	生活者の視点で、住宅・建築の様々なテーマを考えることができる。
Q12	住宅の内・外空間について、家族、ライフスタイル、歴史文化、安全性、快適性等多角的に考えることができる。
Q13	住宅・建築に対して機能的、合理的に考え、更に美的センスを生かすことができる。
Q14	住宅・建築を居住者や利用者の立場から考え、デザインすることができる。
Q15	設計能力、コミュニケーション能力を高め、専門の立場から発言ができる。

### 2019年度住居学科建築デザイン専攻平均

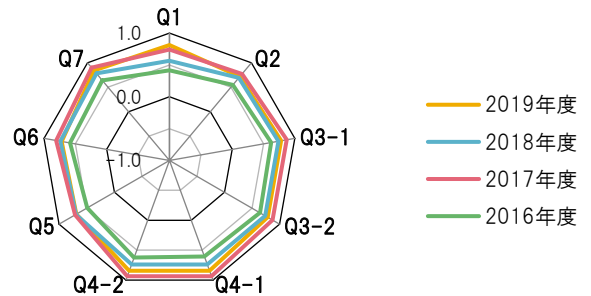
※「強く思う」を2点、「思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「思わない」を-1点、「全く思わない」を-2点とした平均値（「無回答」は集計から除外）



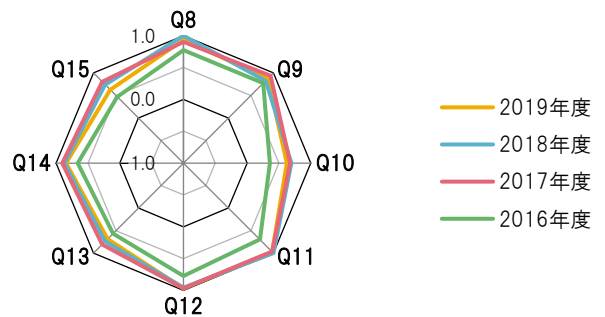
※「強く思う」「思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「思わない」「全く思わない」を-1点とした平均値（「無回答」は集計から除外）

※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢

### 日本女子大学DP(1~4)・家政学部DP(5~7)

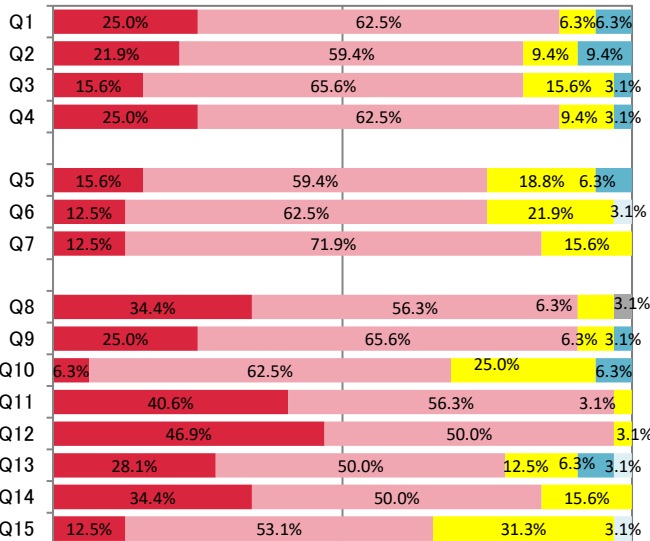


### 住居学科建築デザイン専攻DP(8~15)



	2019年度	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14	Q15
強く思う	8	7	5	8	5	4	4	11	8	2	13	15	9	11	4	
思う	20	19	21	20	19	20	23	18	21	20	18	16	16	16	17	
どちらともいえない	2	3	5	3	6	7	5	2	2	8	1	1	4	5	10	
思わない	2	3	1	1	2	0	0	0	1	2	0	0	2	0	0	
全く思わない	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
無回答	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	

■ 強く思う ■ 思う ■ どちらともいえない ■ 思わない ■ 全く思わない ■ 無回答

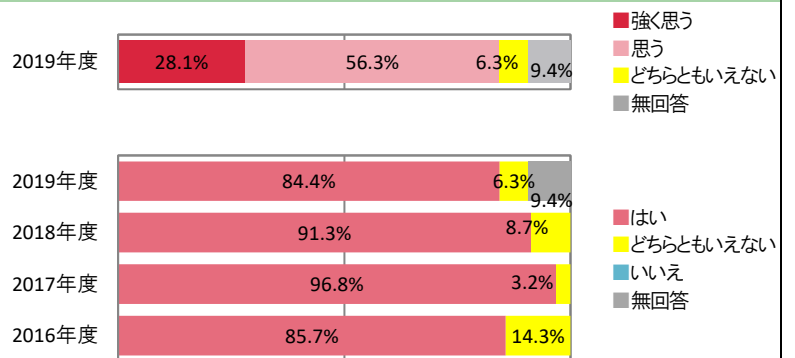


グラフ	2016年度まで	Q	2017年度より
Q8	広い視野から住居や地域を理解できる。	Q8	広い視野から住居や地域を理解できる。
Q9	建築設計に必要なことの基本を理解できる。	Q9	建築設計に必要なことの基本を理解できる。
Q10	自然科学、情報処理技術などの知識を用い、生活環境に関わる問題を論理的に分析できる。	Q10	自然科学、情報処理技術等の知識を用い、生活環境に関わる問題を論理的に分析できる。
Q11	生活者の視点で、住宅・建築の様々なテーマを考えることができる。	Q11	生活者の視点で、住宅・建築の様々なテーマを考えることができる。
Q12	住宅の内・外空間について、家族、ライフスタイル、歴史文化、安全性、快適性等多角的に考えることができる。	Q12	住宅の内・外空間について、家族、ライフスタイル、歴史文化、安全性、快適性等多角的に考えることができる。
Q13	住宅・建築に対して機能的、合理的に考え、さらに美的センスを生かすことができる。	Q13	住宅・建築に対して機能的、合理的に考え、更に美的センスを生かすことができる。
Q14	住宅・建築を居住者や利用者の立場から考え、デザインすることができる。	Q14	住宅・建築を居住者や利用者の立場から考え、デザインすることができる。
Q15	設計能力、コミュニケーション能力を高め、専門の立場から社会的発言ができる。	Q15	設計能力、コミュニケーション能力を高め、専門の立場から発言ができる。

◇ 日本女子大学で学んで良かったと思いますか？

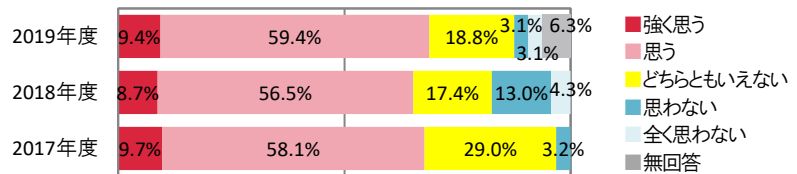
建築	年度	2019	2018	2017	2016
はい	強く思う	9	4	5	30
	思う	18	17	25	
どちらともいえない	どちらともいえない	2	2	1	5
	思わない	0	0	0	0
いいえ	全く思わない	0	0	0	0
	無回答	3	0	0	0

※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢



◇ 学生生活に関する大学の支援体制は、あなたにとって適切だったと思いますか？

建築	2019年度	2018	2017
強く思う	3	2	3
思う	19	13	18
どちらともいえない	6	4	9
思わない	1	3	1
全く思わない	1	1	0
無回答	2	0	0



## 7. 家政学部 被服学科

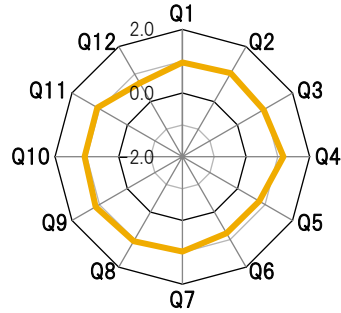
(回収率:83.3%)

### <身についたと思いますか>

◆ 日本女子大学の学位授与方針(DP)	
Q1	建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。
Q2	強い信念を持ち自らの人生を切り拓いていくことができる。
Q3	自ら新たな課題を発見し、専門的知識と教養教育により培われた知性と感性によって課題の解決に努めることができる。
Q4	他者に対する共感の気持ちを持ち、まわりの人々と円滑なコミュニケーションをはかって、共同でよりよい社会を築くことができる。
◆ 家政学部の学位授与方針(DP)	
Q5	人間生活を科学的かつ実践的に考察することができる。
Q6	生活そのものが持つ総合性を理解し、専門的知識を持って社会に貢献することができる。
Q7	現実の生活を客観的に把握し、自ら問題を発見し、様々な人と協働して解決していくことができる。
◆ 被服学科の学位授与方針(DP)	
Q8	被服に関する科学的専門知識を修得し、幅広い専門領域から人間生活に必要な被服学の本質を学び、基礎から応用に至る知識を修得する。
Q9	学修した総合的な知識を基礎に、様々な身体条件の人々や生活環境に対応する、快適な衣生活のありかたを考えることができる。
Q10	人間、社会、自然、環境について深い関心や、被服を通していろいろな人の生活を快適に豊かにしたいという意志を持ち、その実現に向かって努力する。
Q11	多角的な視点から被服を理解し、その知識を生活の質(QOL)の向上に活用できる。
Q12	被服の専門家として、生活分野や教育分野で活躍できる。

### 2019年度被服学科平均

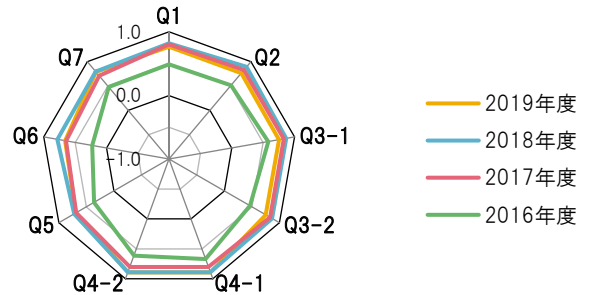
※「強く思う」を2点、「思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「思わない」を-1点、「全く思わない」を-2点とした平均値（「無回答」は集計から除外）



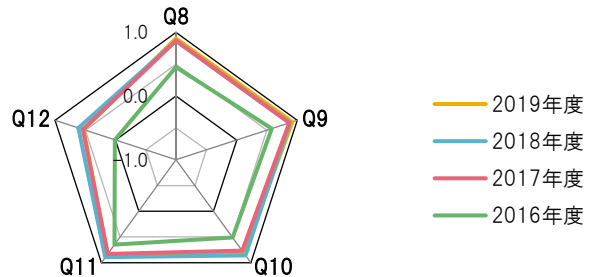
※「強く思う」「思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「思わない」「全く思わない」を-1点とした平均値（「無回答」は集計から除外）

※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢

### 日本女子大学DP(1~4)・家政学部DP(5~7)

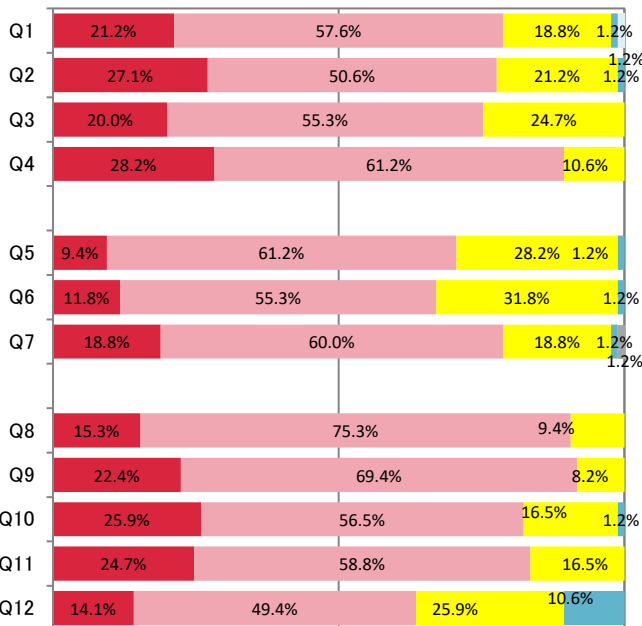


### 被服学科DP(8~12)



	2019年度	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12
強く思う	18	23	17	24	8	10	16	13	19	22	21	12	
思う	49	43	47	52	52	47	51	64	59	48	50	42	
どちらともいえない	16	18	21	9	24	27	16	8	7	14	14	22	
思わない	1	1	0	0	1	1	1	0	0	1	0	9	
全く思わない	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
無回答	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	

■ 強く思う ■ 思う ■ どちらともいえない ■ 思わない ■ 全く思わない ■ 無回答

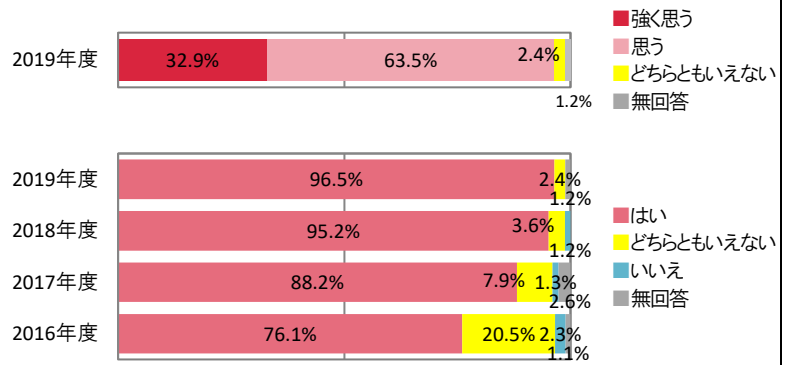


グラフ	2016年度まで	Q	2017年度より
Q8	科学および文化の幅広い専門領域から人間生活に必要な被服学の本質を学び、基礎から応用に至る知識を修得する。	Q8	被服に関する科学的専門知識を修得し、幅広い専門領域から人間生活に必要な被服学の本質を学び、基礎から応用に至る知識を修得する。
Q9	学修した総合的な知識を元に、状況に応じた素材や衣服ならびに望ましい衣生活を考えることができる。	Q9	学修した総合的な知識を基礎に、様々な身体条件の人々や生活環境に対応する、快適な衣生活のありかたを考えることができる。
Q10	人間、社会、自然、環境について深い関心を持ち、被服を通していろいろな人の生活を快適に豊かにしたいという意志を持ち、その実現に向かって努力する。	Q10	人間、社会、自然、環境について深い関心や、被服を通していろいろな人の生活を快適に豊かにしたいという意志を持ち、その実現に向かって努力する。
Q11	多角的な視点から被服を理解し、その知識を生活の質(QOL)の向上に活用できる。	Q11	多角的な視点から被服を理解し、その知識を生活の質(QOL)の向上に活用できる。
Q12	被服の専門家として、生活分野や教育分野で活躍できる。	Q12	被服の専門家として、生活分野や教育分野で活躍できる。

◇ 日本女子大学で学んで良かったと思いますか？

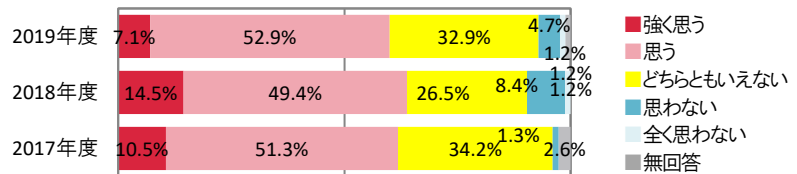
		(人)			
被服	年度	2019	2018	2017	2016
はい	強く思う	28	29	21	67
	思う	54	50	46	
どちらともいえない	どちらともいえない	2	3	6	18
いいえ	思わない	0	0	1	2
	全く思わない	0	1	0	
無回答	無回答	1	0	2	1

※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢



◇ 学生生活に関する大学の支援体制は、あなたにとって適切だったと思いますか？

被服	2019年度	2018	2017
強く思う	6	12	8
思う	45	41	39
どちらともいえない	28	22	26
思わない	4	7	1
全く思わない	1	1	0
無回答	1	0	2



8. 家政学部 家政経済学科

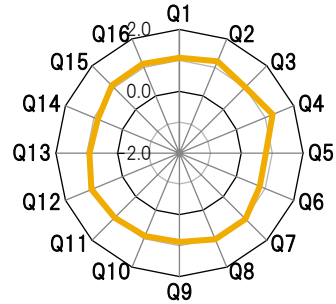
(回収率:91.2%)

＜身についたと思いますか＞

◆ 日本女子大学の学位授与方針(DP)
Q1 建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。
Q2 強い信念を持ち自らの人生を切り拓いていくことができる。
Q3 自ら新たな課題を発見し、専門的知識と教養教育により培われた知性と感性によって課題の解決に努めることができる。
Q4 他者に対する共感の気持ちを持ち、まわりの人々と円滑なコミュニケーションをはかって、共同でよりよい社会を築くことができる。
◆ 家政学部の学位授与方針(DP)
Q5 人間生活を科学的かつ実践的に考察することができる。
Q6 生活そのものが持つ総合性を理解し、専門的知識を持って社会に貢献することができる。
Q7 現実の生活を客観的に把握し、自ら問題を発見し、様々な人と協働して解決していくことができる。
◆ 家政経済学科の学位授与方針(DP)
Q8 経済学、家政学及びその他関連領域に関する基礎知識を身に付け、経済と生活の互いの関わりを広い視野で理解している。
Q9 選択した専門分野の知識を身に付け、経済問題や生活問題の分析に活用できる。
Q10 経済問題や生活問題に関する課題について幅広い視野を持って論理的に考察し、その解決の道筋を自らの意見としてまとめることができる。
Q11 身近な生活問題からグローバルな問題まで、経済と生活の関わりに関心を持って考えることができる。
Q12 自分の利益のみでなく社会や自然への影響を考えながら行動することができる。
Q13 課題解決に必要な文献・資料等を多様な手段を組み合わせる収集し、知識を整理することができる。
Q14 様々な調査・分析手法を用いて、研究テーマについて分析することができる。
Q15 自らの意見を述べ、討論し、仲間との議論の中で自分の考えを深めることができる。
Q16 分析した内容を踏まえ、自らの考えを論文・レポートとして表現することができる。

2019年度家政経済学科平均

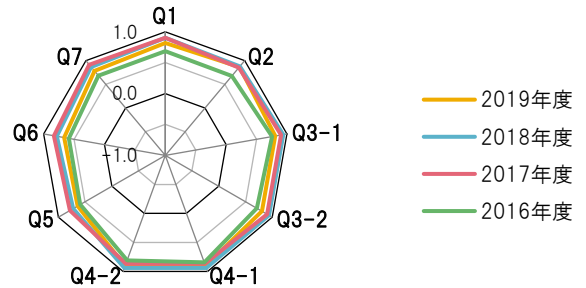
※「強く思う」を2点、「思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「思わない」を-1点、「全く思わない」を-2点とした平均値（「無回答」は集計から除外）



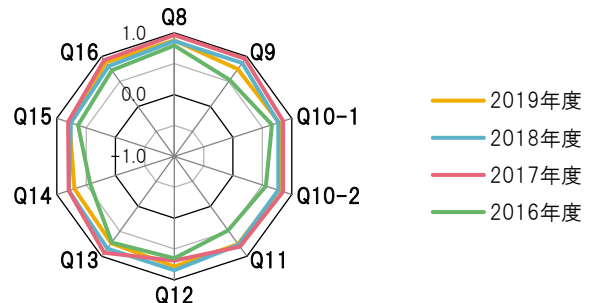
※「強く思う」「思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「思わない」「全く思わない」を-1点とした平均値（「無回答」は集計から除外）

※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢

日本女子大学DP(1~4)・家政学部DP(5~7)

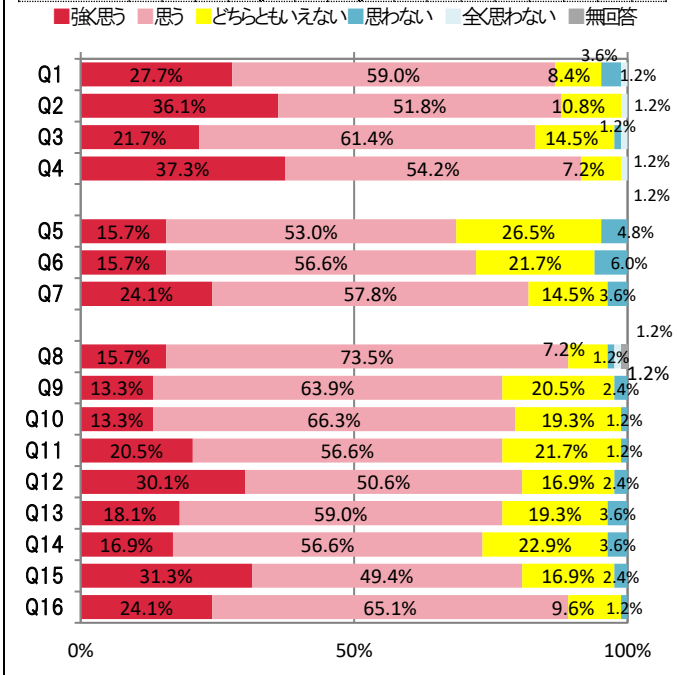


家政経済学科DP(8~16)



(人)

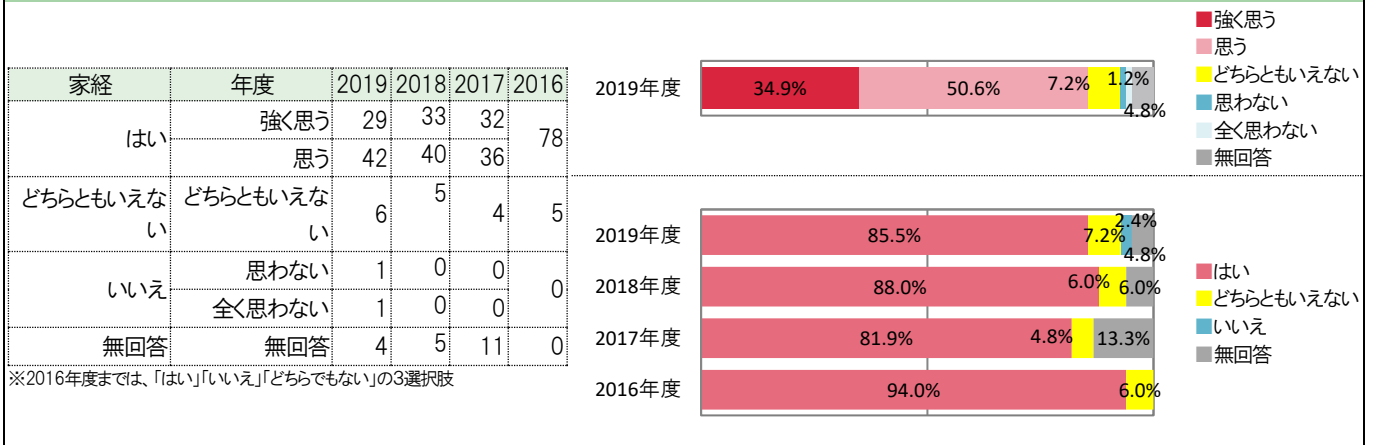
	2019年度	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14	Q15	Q16
強く思う	23	30	18	31	13	13	20	13	11	11	17	25	15	14	26	20	
思う	49	43	51	45	44	47	48	61	53	55	47	42	49	47	41	54	
どちらともいえない	7	9	12	6	22	18	12	6	17	16	18	14	16	19	14	8	
思わない	3	0	1	0	4	5	3	1	2	1	1	2	3	3	2	1	
全く思わない	1	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
無回答	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	



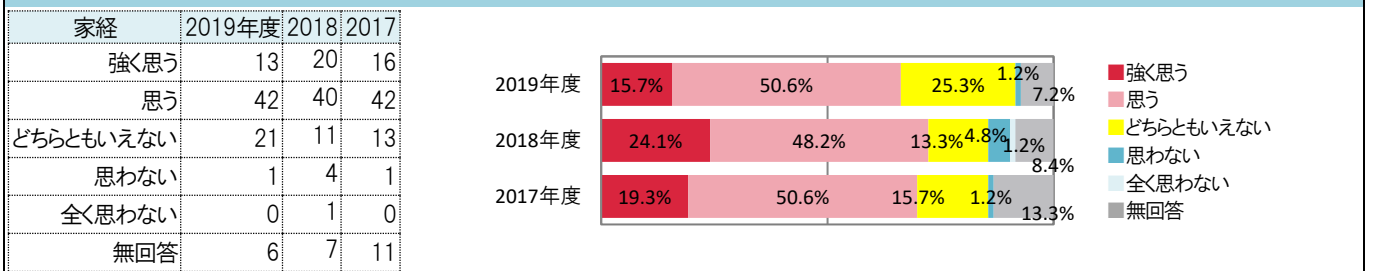
グラフ	2016年度まで	Q	2017年度より
Q8	経済学、家政学およびその他関連領域に関する基礎知識を身に付け、経済と生活の互いの関わりを広い視野で理解している。	Q8	経済学、家政学及びその他関連領域に関する基礎知識を身に付け、経済と生活の互いの関わりを広い視野で理解している。
Q9	選択した専門分野の知識を身に付け、経済問題や生活問題の分析に活用できる。	Q9	選択した専門分野の知識を身に付け、経済問題や生活問題の分析に活用できる。
Q10-1	経済問題や生活問題に関する課題について、広い視野を持って、論理的に物事を考えることができる。	Q10	経済問題や生活問題に関する課題について幅広い視野を持って論理的に考察し、その解決の道筋を自らの意見としてまとめることができる。
Q10-2	経済問題や生活問題に関する課題について、その解決の道筋を自らの意見としてまとめることができる。	Q11	身近な生活問題からグローバルな問題まで、経済と生活の関わりに関心を持って考えることができる。
Q11	経済と生活の関わりを理解した上で、身近な生活問題からグローバルな問題まで関心を持って考えることができる。	Q12	自分の利益のみでなく社会や自然への影響を考えながら行動することができる。
Q12	自分の利益のみでなく社会や自然への影響を考えながら行動することができる。	Q13	課題解決に必要な文献・資料等を多様な手段を組み合わせる収集し、知識を整理することができる。
Q13	課題解決に必要な文献・資料等を多様な手段を組み合わせる収集し、知識を整理することができる。	Q14	様々な調査・分析手法を用いて、研究テーマについて分析することができる。
Q14	専門的な分析手法を用いて、課題について分析することができる。	Q15	自らの意見を述べ、討論し、仲間との議論の中で自分の考えを深めることができる。
Q15	自らの意見を述べ、討論し、仲間との議論の中で自分の考えを深めることができる。	Q16	分析した内容を踏まえ、自らの考えを論文・レポートとして表現することができる。
Q16	分析した内容を踏まえ、自らの考えを論文・レポートとして表現することができる。		



## ◇ 日本女子大学で学んで良かったと思いますか？



## ◇ 学生生活に関する大学の支援体制は、あなたにとって適切だったと思いますか？



以上&lt;家政学部(通学課程)&gt;